

くらぶと

県育協だより

発行
鳥取県子ども家庭育み協会
調査広報委員会

総合施設を考える

鳥取県子ども家庭育み協会

会長 大橋 和久

総合施設の中間まとめの発表が先にあつたが、結局は保育園と幼稚園が統合されることにより、運営費のスケールメリットが働くことによる運営費の削減を予測せざるを得ず、職員配置や保育環境が現状の保育所水準よりも低い幼稚園基準で行われる懸念がある。現に総合施設の職員配置は、限りなく幼稚園の職員配置でよしとしている。このことは実質的な保育所のナショナルミニマムの切り崩しであり、保育所に位置する一人として到底、是認すべきものではない。保育関係者は組織を挙げて阻止すべき問題である。一部に「総合施設」は幼稚園の救済策、幼稚園に、保育園の機能を付加して地域の待機児童解消策、あるいは地方自治体すなわち財源が乏しい市町村の安易な、幼保の一体化、を助長する何にでもないと切り切るむきもある。

ではいったい総合施設とは何かと問われれば、論理的に明確な説明ができる方がいるのかどうかはなほ疑問である。平成15年度に国は「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2003」において「就学前教

育と保育を一体として捉えた一貫した総合施設を設置する」として位置付けたのである。行政執行者や教育関係者、幼稚園関係者の中には保育園には教育の部分が欠けているとして、総合施設の受け皿は我が意を得たりとする思い込みから、幼稚園が主導すべきという輩がいらつしやるが、一般的に言って、幼稚園がはたして、幼児にとっての真の「教育」あるいは「就学前教育」を理解し実践している園がどれだけあるのか。また保育園が行っている保育すなわち「養護と教育」を理解し、検証した上での確信なのであろうか。そういったことを認識せず、乳幼児への不必要な早期教育や学校教育の前倒しであったり、幼稚園の生き残りや、園児獲得のための戦略として捉えるのであれば、むしろ子どもたちにとってなんら益はなく、百害あって一利もないのである。

「総合施設」は保育園でもなく、幼稚園でもない、しかし限りなく役割や機能は幼稚園と保育園の双方の長所を活かし、第三の施設を造るというのである。本年度から試行的ではあ

るが、全国に35箇所モデル実施施設が開設され、平成18年度から本格実施を行うとしているが、午前中の「コアタイム」保育の内容や午後の「預かり保育」、給食の問題、幼稚園の入園料・保育料と保育園の保育料、さらには幼稚園の公からの補助金と保育園の公からの委託費などほとんどを従来の制度のままで行なっており、細かく見てゆくと合理性を欠いており、どうしても矛盾を感じるのである。



一般論として、建前にしろ「総合施設」が意図することは、今回の中間まとめを見る限り、職員配置などの基準の問題を別にしてではあるが、保育園がやってきた実績と保育園が現在有している機能や役割を拡大、強化する方が無理なくスムーズに取り組めることが可能であるし、より乳幼児の「育ち」を保障することができるのは保育園だと思えるのは、保育園に身を置く一人としての勝手な思い込みなのでしようか。

主任保育士研修報告

鳥取県子ども家庭育み協会
主任保育士部会部長
藤井 瑞子

(ねむの木保育園)

平成17年11月9日、宮崎よいこの森第2保育園(園長)小笠原文孝先生を招いて、主任保育士研修会を開催いたしました。この研修会を開催するにあたり、「現在の保育ニーズを明確にし、具体的な方法を講義により学ぶこと。」さらに、「主任保育士としての役割を再検討し、専門性を高め、保育の質の向上を図ること」を主旨としました。

保育ニーズの多様化により、保育園の保育の範囲が広がって

いくなかで、質の高い保育を行うために保育のリーダーとしての主任保育士の役割は重要です。午前中、苦情解決についての講義を聞いた後、グループ討議をして普段かかえている保育の課題・問題点・悩みを出し合い、答えていただくという形で研修をおこないました。

よりよい保育をするために、保護者の要望をどう受け止めるのかどう応えていくか、苦情処理ではなく苦情解決することの大切さを、具体的な事例を通して話していただき学ぶことができました。まず、「はい」と言える職員であること。言葉遣いから変わる。立ち居振る舞いや聞く態度姿勢が大事である。等など、具体的にユーモアたっぷりに講演していただきました。意見も苦情の一つと考えて、苦情がないからよいのではなく、共に育児を考えるパートナー的存在として、親自身の考えや判断が園に反映できる環境を整えることの大切さ。そして、コミュニケーション不足、情報の共有化、信頼関係の欠如から発生する問題は大きいので、何でも言える関係づくりが大事であることを学びました。

スウェーデンの

保育から見る 日本の保育

先日、保育学会のフォーラムにおいて、スウェーデンのイエテボリ大学教育学部イングリッド・ブラムリン・サミユエルソン教授の講演を聞いた。以下、要約すると、スウェーデンでの保育は、子どもたちが自主的に遊び込むよう保育者が環境を設定し、展開することが一般的に広く行われている保育スタイルである。

問題となっているのは、その保育中に子どもの自主性を尊重するあまり、保育者が子どもに関わりたくないことである。その原因は、ピアジ

エの理論が根底にあり、「何歳になればこのようなことができる」など、「環境を整えさえすれば、子どもが成長する」とする考えが根強くあることだ。そして「子どもの遊び」と「学び」を別にしてしまうことにより、保育者から子どもへの働きかけを弱めてしまっている。

しかし、遊びと学びは統合されているものである。だから子どもたちの遊びの中にある、学びの要素を見つけて保育者は働きかけなければいけない。しかし、まだスウェーデンでは、そこに至っていないという内容であった。

われわれ、日本の保育者は「保育者が子どもに働きかけないなんて…」と思うだろう。

しかし、日本においては、子どもがどのよう過ごしているようにもお構いなく、まるで土足で他人の家へ踏み込むように保育者が子どもの遊びに介入し、邪魔していることの方が多い。現保育学会会長の小川博久先生は、かつて米子市において開催された別な学会において、「保育者は、子どもの遊びを邪魔するな。」と述べられた。

「保育とは、子どもを遊ばせ、楽しませること」としか思っていない保育者がなんと多いことか。日本の保育は、「存在である」ことを自覚し、そこを出発点として子どもに関わることを始めなければならぬ。

また、短い時間でしたがグループ討議では、日ごろの保育の取り組みや、それぞれの園の課題や問題点、悩みについて熱心に話し合う意欲的な姿がありました。小笠原先生より一つひとつ丁寧に答えていただき、ユーモアの中にも心に響く内容で、有意義な研修となりました。今回の研修をこれからの保育に生かしていけたらと思います。

神戸視察研修

環境による保育の実践

視察見学を通して先進地に学ぶ

平成2年度に保育所保育指針が改訂され早15年が経とうとしている。

改訂の背景は、ここで改めて取り上げるまでもないが、子どもを取り巻く色んな要因により、環境による保育が大きくクローズアップされた。当時、訳もわからないまま書店に通い環境についての書物を買ひあさったことを今でもはっきり覚えていいる。あれから今日まで、果たして保育指針が目指す保育の展開が、現場でなされているのだろうか。そんな疑問をもちながら、昨年11月14日から16日までの3日間、鳥取県子ども家庭育み協会主催の視察研修に参加した。参加者は園長、副園長、主任保育士、保育士と総勢18名であった。

視察先は、神戸市で地域のニーズに一早く対応され幅広く取り組んでおられる社会福祉法人みかり会の、多夢の森保育園。夢の森保育園。そして、淡路島の、松帆南保育園。松帆北保育園。の4つの保育園であった。園の特色を生かし、企業委託型保育サービスマや高齢者介護サービスマ等も併設されている。4園とも設立年数や地域性等それぞれ異なるが、どの園を訪ねても玄関に入った瞬間から何かが違っていた。その何かがまさに私達が追いつけている環境

そのものであった。

アットホームな「昼間の家庭」をめざして

・〇〇組さんのお部屋ではなく、く、くをするお部屋に

学校のような、一クラス一部屋。というのではなく、目的別（ランチルーム、プレイルーム、お昼ねルームなど）のお部屋で一日を過ごす。

・公共施設のような雰囲気をつくす

モデルを学校に求めるのではなく、公共施設がもつ雰囲気を提供するために、くつろぎの場を提供するために、少しでも家庭に近いような環境がふさわしい。



空間の使い方で子どもたちも落ち着いて生活できます



「子どもの主体的遊びとは」を考えます

素敵な保育園になること

・保護者から「こんな保育園に子どもを預けたい」と思っていただけのような保育園

・子どもには、主体性と創造性を育む保育内容を一つの保育室が目的別のエリアに別れている。例えば、絵画製作などの「表現エリア」、絵本、文字合わせなどの「言語エリア」など

・お片付けで遊びが中断するのではなく、いつでも遊びの続きが保障されいつでも思いついた時に遊びが満足できるような遊びのコーナーの設定

・美を意識した環境づくり

人の感性は、子どもだからといって大人と変わるものではなく、美しいと感じる心は同じです。常にアンテナを張り巡らし、保育者自身も感性を磨く。何よりも材料選びが大切（色、素材、布etc）



環境（インテリア）のポイント

・玩具、絵本の飾り方

そのままだけで、インテリアになるような玩具遊び。

・写真、絵の飾り方

子ども達の写真は額や写真立てを使ってセンスよく飾る。

・布使いのポイント

布の色、柄の選び方によって部屋の雰囲気が決まる。カーテン風に飾る。

・子どもの描いた絵は、全員一斉に貼り出すのではなく、毎月数枚額に入れる。

・壁の使い方にも工夫があります



読書コーナーも落ち着いた雰囲気があります



壁の使い方にも工夫があります

家具選びのポイント

安全であることが基本（不安定ではないか、面取りはしているかetc）。

・機能性が重要な家具はデザインしてオーダーする。



ランチルームもカフェテリア



画材も自分で取りやすいようにしてあります

自然との関わり

・四季を感じることでできる園庭、起伏のある園庭。

・五感を刺激し、創意、工夫、発見、共感等何よりも感性を育む。

最後に訪問した神戸の、夢の森保育園。は、統廃合で閉校に



テラスも遊び空間です



落ち着いた空間が遊びを育てます

なった小学校の1階を全面改装され、2004年4月より開設された保育園で、玄関を一步踏み入ると、保育園というよりもまさに昼間の家庭。そこは欧米を思わせるような空間と照明とインテリア。まるで魔法にかかったように落ち着いた優しい気持ちになれる。きつと、お迎えに来られた保護者の方も、一日の疲れをつかの間癒し家路に着かれるのでしよう。また、自然そのものを取り入れた園庭は、都会にいなながら四季の変化を体中で感じ取ることが出来る。今回の視察研修で、環境による保育の意義と重要性を改めて感じた。その地域の実態や保育園の特性を生かしながら、そこで生活する子ども・保護者そして保育者自ら、ほっとくつろげるような昼間の家庭を目指して、今一度原点に立ち返りできることから取り組んでいきたい。

初任保育士研修

初任保育士研修会に

参加して

あゆみ保育園 伊藤佳子

一日目に、保育現場研修として、赤碕保育園に行かせていただきました。赤碕保育園は、何よりも一番環境づくりに力を入れておられ、一つ一つどこを見ても、とても勉強になりました。園全体が心なむような雰囲気、各部屋には自分で遊びを選んで取り組めるコーナーがあり、遊びこめる部屋でした。

園庭には山や池、田んぼ、りんごの木には子どもたちの手で袋かけがされており、秋の収穫を心待ちにする様子が感じられました。いろいろなことがあつめて、とても魅力的な環境作りがされていて感心しました。

今、私が勤めている園では、環境という面がまだまだ大きな課題となっているのが現実で、今後どのようなものをどういう形でどんな風に取り入れていけばよいのか手探り状態で、私自身もまだまだ勉強不足であります。だからこそ、今回の環境作りが大きなテーマとなった現場研修では、たくさんさんのヒントをいただいた気分です。このヒントをうまく活用し、今後わが園でもできることからとどんと取り入れて生きたいと思えました。

二日目は、岩城敏之先生の保育実践の基本という講義を学びました。この講義では、保育における一番基本的なことを改めて学び直すように思います。

それと同時に日ごろの言葉かけや、トラブルの対処法・見通しを持った保育方法など、いろいろな面での反省点と課題が見つかりました。

最後に、この研修で一番良かったことは、初任の保育士が研修をきっかけとして同じ頃に出会い、学びあえたことです。同世代というところで、本音で話ししたり、聞きあい学びあったりすることは普段なかなかできないこと、とても貴重な研修となりました。今後もこのような研修が続けられることを強く願います。同じ保育士として共に良い保育を目指してがんばりたいと思います。

乳児研修

乳児研修会に参加して

すくすく保育園 宮尾紀子



11月8日(火)県立福祉人材研修センターにおいて、宮崎市よいこのもり保育園 園長 石井 薫さんを講師として、「乳児保育の基本と実践」について、研修させていただきました。一番印象に残っていること

は、「乳児は未分化」ということです。一人では生きられませんが、保護のもと沢山の愛情を注がれてこそ感性が育ち、心が育っていきます。そして分化へと導かれます。はじめは未分化と聞き言葉の意味がピンときませんでしたが(乳児の特性)、(乳児の安全や健康観察のポイント)、(離乳食の実践的取り組み)などの項目をもとに、わかりやすくスライドを交えながら講義が進むうちに未分化から分化へ導いていくことの大切さを痛感しました。

子どもはお腹が減った時や、困ったときなどに泣いて訴えます。あなたはしっかりと受け止めていますか?授乳時やおむつ交換のときなどに、愛しいと思うことを伝えていく。「ミルク飲もうねー」「おいしいねー」「きれいにしようねー」と言葉をかけ、たっぷりの愛情を注ぎ共感することを通して子どもは愛情を敏感に受け取ります。手をかけ、心をかけていくことで、うれしい・気持ちいい・と満たされます。その積み重ねで信頼感や安定感も生まれます。

そして分化へとつながっていきます。日々の保育を思い出しながら「今」しかない時の大切さを見逃さず、子どもたちに関わっていききたいと思います。「個々の健康状態を毎日きちんと把握していますか?」「個々にあった授乳や、離乳食はきちんと進められていますか?」などの質問をフロアーに投げかけられ私は、ドキッとしました。毎日していることなのに自信を持って答えられないのです。日常のマンネリを指摘されたようでした。

この研修会に参加し、とても新鮮な気持ちになりました。今一度、日々の保育を原点から見つめなおす機会を与えられました。そして、個々の命を保障していく大切さを改めて学んだように思います。保育士というプロの意識を持って日々の保育が馴れ合いにならないためにも、常日頃研修を重ね、自分を高め、また保育者同士・職場の仲間同士お互い刺激しあひながら、技術・専門性を高めていかなければならないと思えました。子どもたちが、すばらしい分化を築いてくれるために。

実技研修

今回、このような実技研修に参加させていただき、これまで知らなかったたくさんの方の事を教えてもらうことができました。

紙ヒコーキの作り方から、描画の発達過程年齢とテーマ別による絵の指導、動くおもちゃづくり、と内容はどれも具体的に興味深いものでありました。特に描画の発達過程と、絵の指導法は、これまでこれでよいのかと、常にやり方に自信を持つことができずに行ってきた自分の指導の仕方、テーマや画材の選び方などを基礎から丁寧に示してくれたものでした。ペン、筆の持ち方、言葉かけについてひとつひとつが即、今後の保育の中で役立つことだと感じ、参加

しながら、自分と子どものやりとりを想像し、ウキウキしてくる位でした。

また、園部先生のお子様のお話や、紙のサイズについてのお話、接着剤のお話など、どれも楽しく、もつとたくさん聞かせて欲しいと思える研修会でした。

研修会参加後に、実際に描画の指導をして、これまでよりスムーズに、また楽しく子どもたちが描くようになったと感じました。

次は「お話の絵」をしてみようと考えています。描く前に三回は読み聞かせをする、好きな場面は、子どもそれぞれに違う、子どもたちの頭の中にあるものを引き出して描いていく。園部先生に教えていただいたことからのことを、もう一度読み返し、整理して、保育の中に生かしていきたいと思えます。

給食研修

給食担当者研修会に

参加して研修会に

倉吉市立上井保育園 楠田聖子

平成17年11月2日(出)、新日本海新聞社「ホール」にて、平成17年度鳥取県保育所給食担当者研修会が、約160名の参加で行われました。

講師に、東京教育専門学校管理栄養士の森山喜恵子先生を迎え、「成長にそった食事の進め方」―赤ちゃんからの発達―というテーマで講義を受けました。

その中で、離乳食を進める上での留意点、食べる機能の発達と食べ物の関係、発達に応じた調理法などを学びました。また、食事は、身体だけでなく、豊かな心と協調性を育むということも学びました。食事を作る人の心は、食べる人に伝わります。食べる立場に立って調理することが大切です。「食」は人を良くするということが、今の食事が生涯ずっと続いていくということを再認識させられる講義でした。

なにも黒板に書いて教えることが食育とは限らない。毎日作っているひと皿ひと皿が食育の教材そのものであるということに教えていただきました。

近年、少子化が深刻化していく中、子どもたちを取り巻く環境も複雑になり、家庭での食生活もおろそかになりつつある現状があります。私たちは、常に食育を意識し、機能、発達に応じた食事作りをすることが大切だと実感しました。今後、日々努力し、よりよい給食を子どもたちに提供していきたいと思えます。



統計から見る 今後の保育

生活の豊かさ国際比較—人間開発力指数

生活の豊かさの国際比較が人間開発報告書として国連より出ている。これは、「健康な生活」「知識」「人並みの生活水準」などの基本的な人間の能力がどこまで開発されているかを開発計画に基づいて国連が調査した報告である。

それによると2001年より連続でノルウェーが第1位となっており、以下アイスランド、オーストラリア、ルクセンブルク、カナダ、スウェーデン、アイルランド、ベルギー、米国、前年まで9位だった日本が11位と続いている。ちなみにアジアでは、香港22位、韓国28位、中国85位となっている。

生活の豊かさの中には当然教育も含まれている。その学校教育に対してGDP（国内総生産）の何割が当てられているかを比較した統計を見ると様々なことが浮かび上がってくる。

ここでの第1位は韓国で71%（公費43%、私費28%）、米国70%（公費48%、私費22%）、デンマーク67%（公費64%、私費03%）、日本は23位で46%（公費35%、私費12%）となっている。これを公費だけで見ると日本は、37%のギリシャについて26位となり、私費だけを見ると韓国、米国、オーストラリアについてカナダと同じく12%で4

位となっている。

生活の豊かさに対して教育が果たす役割は、それがすべてと言えらるほどに大きいものである。そうなる韓国の場合、公費は27カ国の平均を下回っている。私費もかなり投入されている。全体のポイントを押上げていく上に、さらに放課後に通わせる塾のために支出している私費も別に存在する。合計特殊出生率の低下の要因となっている上に、人間開発力と照合すると、学校教育費と塾などに私費を投じた教育の内容が国全体の生活の豊かさには反映されていないことを表している。それに対して日本は、GDP支出の割には教育が機能していて、生活の豊かさには貢献していると言えるのではないだろうか。

喜んでばかりもいられない。公私の割合については、その国の税金に対する考え方の違いが反映されるので是非の判断はできない。しかし、統計の27カ国の公費平均が48%に対して日本の35%は割合としては極端に低く、私費平均06%に対して12%は極端に高い。

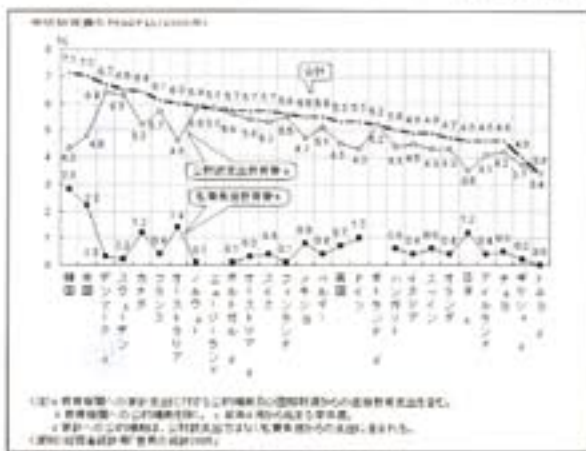
つまり生活の豊かさは、公費ではなく私費によって支えられているのが現実である。公費に頼る割合が低いということは、今後様々な理由で公費が抑制さ

れ始めた場合、国全体としての生活の豊かさを保とうとするならば、当然として私費に頼ることになり、家庭の教育費に占める割合が増え、家計を圧迫する。

家計に占める学校教育費の割合は、高額所得層においては問題がないが生活費の大部分を教育費に充てざる得ない貧困層にとっては、大きな打撃をこうむることになる。現在、その貧困家庭は7人の子どもに1人の割合で存在する。公費の支出が減少すると国全体から見ればこれらの子どもは、生活の豊かさを構成する国民になれないことになる。経済の悪化や地方分権を理由として現在よりも公費が抑制されるならば、前年の9位から本年11位に低下した日本の人間開発力は、現在の水準を維持できなくなり、さらに悪化の一途をたどり続けることになる。

ろう。ましてや塾に頼らないでという条件を満たしながら成し遂げようとするならばなおさらである。

経済のデフレはいまだ解消していないが、今まさに最も恐ろしい文化的なデフレが始まろうとしている。教育の最終責任は誰が負うのか政治を見ていなければならぬ。



子育て Books

「すこやかに育つ」

5歳未満の子育て
東京ベビーテル出版プランケット
協会編纂木下デュランド美恵訳

この本は、ニュージールランドで子育て支援をしているプランケット協会が発行している育児書です。子育てには多くの人々の見守りと手助けが必要で、日本では現在本人が育児書を買って読んで、様々なところから情報をつなぎ合ったりとばらばらな情報をつなぎ合わせて育児をし、逆に混乱を招いている場合があります。子育て支援について長い歴史を持つプランケット協会は、よくあ

る子育てに関する事柄や心配事についての手軽な相談書としてこの本を無料で配布しています。子育てを「頑張れ、頑張れ」と頑張らせてしまう日本の子育てではなく、こうすれば解決できますよと答えを出してくれるこのような手引書の方が今の日本にはふさわしいように思います。是非一読を！

「クレイの絵本」

谷川俊太郎 講談社
パウル・クレイは19世紀から20

世紀にかけて生きたスイス生まれの画家です。心の奥底に響くクレイの絵に、谷川俊太郎さんが詩を書きました。日常生活で忘れてしまいがちな心を取り戻してくれる一冊です。

編集後記

つくづく、園長の仕事は「何でも屋さん」だと思ふ。保育内容について責任を負うことは当然。ただでさえ少ないと感じている保育予算に手を突っ込んでくる輩の侵入も防がなければいけない。あっちにも、こっちにも、やらなければいけないことが山積みだ。オペラ「セヴィリアの理髪師」の中で、フィガロは忙しいと楽しそうに歌っていたが、そんな余裕を持ってみたい。

(赤碓保育園 福田泰雅)

今は、編集を無事に終え、ほっとしているというのが、正直な気持ちです。役員を引き受けて、一年が経とうとしています。本当に右も左もわからず戸惑ってばかりでしたが、他の役員の方々に支えていただき、やっとの思いでここまで辿り着くことができました。今は、皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。(倉吉市立下井保育園 楠田聖子)

私、保育園に勤めて6年近くになります。前職はJAでした。園に勤めて保育用語、業務内容等ちんぷんかんぷん。幸い我が園にはしっかりとした在職職員がいて大変助かっています。漸く

流れが分った位です。大変奥の深い仕事ですね。これからも、園の経営、運営にとがんばり、子どもたち、保護者、職員が一致協力していっそう明るい楽しい園にと切望している所です。

(琴浦町みどり保育園)

今年度より、育み協会の広報委員・主任保育士部会の部長をさせて頂いています。初めの大役で、何をどうしてよいか分からず戸惑うことも多かったですが、何とか1年が過ぎようとしています。くらふとの発行にあたり、これまで協力して下さった先生たちに、感謝の気持ちを伝えたいと思います。そして、今後とも宜しくお願いします。

(米子市ねむの木保育園 藤井瑞子)

我が家には一歳を過ぎた「ラブラドルレトリバー」がいる。盲導犬で有名な犬だ。賢くて飼いやすと聞いたのだが、やはり子ども期はやんちゃである。運動量が多いし、家を壊されそう。だが、しつけと思つて叱つてばかりいると、良い関係が築けないらしい。一歳までは「叱らずに、甘えを受け止めて愛情を注ぐのが良い」ということだ。しつけはそれからというところで、人間の子も犬の子も、基本は同じだった。

(仁慈保育園 妹尾)